

ウエルの
今を
深掘り!

WELL通信

2025.4.APRIL [ウェル通信]

25



豊中市と包括連携協定を締結し、
地域の安全・安心づくりへの
貢献を目指す

和洋中を織り交ぜて、飽きない工夫を

日々のお食事は、ウエル清光会のブログでも紹介しています。ぜひご覧ください。

QRコード

月に一度、全国各地のグルメを提供する「ご当地メニュー」でご提供した茨城県のスタミナラーメン。季節感あふれる、野菜たっぷりのラーメンです。

5/5の子どもの日には、カードを添えたエビフライやハンバーグで楽しさを演出して

和洋中の
バリエーション豊かなお食事を

和
洋
中
だ
よ
り

厨 房

豊 中

フードピント!

ウエル清光会グループ

事業所
PICK
U
P

住宅型有料老人ホーム パセム西宮

■定員:38名 ■兵庫県西宮市段上町6丁目24-43 ■0798-53-0050



満足度の高いケアを目指して多職種で連携

作業療法士と看護師が健康をサポート

住宅型有料老人ホーム パセム西宮には、作業療法士と看護師が各1名在籍しています。作業療法士は、体操や歌、塗り絵などを通して入居者様の心身の健康維持を目指す集団リハビリと、筋力維持を目指す個別リハビリを実施しています。どちらも日々の積み重ねが大切なので、拒否が強い方には介護士とも連携してアプローチの仕方を工夫し、できる限り参加いただけるように努めています。



看護師は、入居者様のお身体の状態に応じた医療的なケアを提供しています。また、介護職やケアマネジャーなどの現場を支える職員と、内科や眼科、歯科などの訪問診療医との架け橋となり、正確な情報伝達を行って入居者様の健康を支えています。

知識を現場と共有しケアの質を高める

入居者様の介護度は要支援から要介護5まで幅広いため、それぞれの介護度に適したケアを職員全員が提供できるよう、作業療法士と看護師が日々知識を共有しています。例えば作業療法士は、職員の体への負荷を軽減しながら入居者様に対して正しいケアを行えるように動画や写真で手法を伝えています。看護師は、入居者様の血圧や嚥下などに変化がある際にも介護職員

が不安なくケアできるよう、日々のコミュニケーションを通じて対処方法を伝えています。毎日入居者様に接する介護職員のスキルを高めることでケアの質の向上を図り、入居者様にもご家族にも安心いただける施設づくりを進めています。



少人数だからできる細やかな配慮

パセム西宮は定員38名のアットホームな施設で、お一人おひとりとじっくり向き合えるゆとりがあることが特徴です。リハビリも

頻度高く行えるため、毎日のようにリハビリを続けた結果、ご自宅に復帰された方もいらっしゃいます。作業療法士とのリハビリの時間を待ちにして、「荒尾先生だから頑張れる」と意欲的に取り組んでくださった姿が印象的でした。

看取りにまで対応しているため、最期の時には入院される入居者様もいらっしゃ

いますが、当施設を第二のわが家と思ってくださり、いくつかの選択肢がある中で「パセムに帰りたい」とおっしゃっていましたことも少なくありません。

こうした信頼を得るためには、日頃の細やかなケアが不可欠です。ご本人からいただいた最期の言葉やご家族からの感謝の言葉を看護師が受け止め、現場にフィードバックすることで職員のモチベーションを高めています。それがさらにご満足いただけるケアへつながり、利用者様とご家族からの信頼へつながっていく、良い循環を目指しています。

入所系・通所系サービスのご相談は、下記の事業所へ直接ご連絡ください。QRコードから、それぞれの連絡先をご覧いただけます。

ウエルグループ

豊中市

- ①清豊苑 [特]
- ②利倉清豊苑 [地/デ/グ/小/ケ/定]
- ③美豊苑 [特/ケ]
- ④刀根山美豊苑 [地/デ]
- ⑤輝豊苑 [デ/グ]
- ⑥ウエルケアプランセンター

宝塚市

- ⑦ウエリスト [小/デ]
- ⑧社会福祉法人香聖会 宙(すばる)豊中 [地/グ/小]
- ⑨庵とよなか庄本 [有]
- ⑩エターナル緑地 [有]
- ⑪ケアプランセンター西宮清光苑



豊中市と 包括連携協定を 締結し、 地域の安全・ 安心づくりへの 貢献を目指す

2025年1月、サエラ・ウエル清光会グループは豊中市と包括連携協定を締結しました。グループが生まれた地であり、育てていただいた地でもある豊中市に恩返しをするため、高齢者施設をはじめ、薬局や医療モールなど市内24拠点のリソースとネットワークを活用し、医療・福祉・介護などの分野で地域に貢献します。



ウエル清光会
法人本部 顧問
五嶋保弘



知るきっかけになるだけでなく、入居者様にとっても生徒の皆さんとの触れ合いの機会になります。喜んでいただけると考えています。

■そのほかの取り組み

- ・豊中まつりなど大規模なイベントの救護所に看護師・セラピストを派遣。
- ・利用者様やご家族に向けた市政情報や特殊詐欺防止等のPR。
- ・チームオレンジとしての相談支援等のボランティア協力など、さまざまな取り組みを計画しています。

「六方笑顔」を目指して

グループには高齢者施設や訪問看護ステーション、薬局など豊中市全域に拠点があります。現在はそれぞれが固有の機能を発揮していますが、今後はこれらを結びつけて「面」にし、地域の方々のケアや見守りができるネットワークを市全体に構築したいと考えています。

取り組みは始まったばかり。私たちに何ができるのかはまだまだ未知数ですが、豊中市や地域の方々からのご意見・ご要望も取り入れながら、より良い方法を見つけて進めていきます。たくさんの方を巻き込み、いざなは地域の方々が主体となってグループの拠点を活用したコミュニティづくりを行っていただけることを期待しています。

グループが目指しているのは「六方笑顔」。この理念を職員と今一度共有し、力を合わせ、地域の皆様が安心して暮らせる環境づくりに貢献していきます。

月～土にテイサービスを実施しているホールを活用し、地域食堂を開きます。

■災害時の避難先として活用

避難が困難な方を支援

要介護4・5の方、障害手帳一級をお持ちの方は、災害が発生し避難する際に支援が必要な「個別避難計画対象者」と指定されています。避難計画は、豊中市が一人ひとりの状況に応じて作成しており、その計画に沿ってグループの施設を避難先として受け入れます。豊中市の被災度が高い場合は、宝塚市や西宮市などグループ内の別エリアにある施設

とも連携し、受け入れを進めていく予定です。

阪神淡路大震災時には、厳しい寒さの中、多くの方が体育館での避難所生活を余儀なくされました。災害から一定期間が経つと自宅に戻る方が増え、避難所の規模が縮小していますが、車椅子の方や介護が必要な方は自力で帰ることができない状況が続きました。そのようなことが繰り返されないよう、グループが保有する福祉車両を活用して移送に協力することで、万が一の際にも安心いただけます。

協力することで、万が一の際にも安心いただけます。生徒の皆さんが高い者や介護を

■施設設置のAEDの有効活用

24時間365日利用が可能

豊中市内にある9ヶ所の高齢者施設に設置しているAEDを、一般の方にもご利用いた

私たち、豊中市各地に高齢者施設や薬局、クリニックなど24拠点を開設しており、それに医療や福祉、介護分野の専門知識を有する職員が勤務しています。そのリソースを最大限に活用し、地域住民の皆様に貢献する取り組みを行っていきます。

だけるよう、ポスターなどを設置して認知を広げていきます。施設は24時間365日営業しているため、事故などで急を要する方が必要な時にいつでも利用できます。また、AEDの使用方法について訓練を受けた施設職員がサポートします。

施設に設置したAEDを、必要な方がいつでも利用できます。

■教育機関との連携

高齢者に関する正しい知識を啓発

高齢化が進んでいるにも関わらず、日頃子どもたちが高齢者と接する機会は多くありません。街中でお困りの高齢者の方や、認知症の方に出くわしたとしても、どのように接すればいいのかをイメージできる子どもは少ないと思われます。そこで、市内の保育所や小学校などの教育機関に職員が出向き、出前講座を実施します。認知症についての正しい知識を伝え、「おじいちゃん、おばあちゃんとの接し方」を分かりやすく伝えます。

また、中学校の職業体験を高齢者施設で受け入れます。生徒の皆さんが高い者や介護を

■空きスペースの活用

地域食堂や自習室として開放

日曜日に空きスペースとなるテイサービスセンターを活用し、地域食堂を運営したり子どもたちの自習室として開放したりと、地域の方々の居場所づくり、コミュニケーションづくりを目指します。食堂については、子どもだけでなくファミリーや高齢者まで幅広い年代の方々にご利用いただき、多世代がふれあえる場を作ることが目標です。グループの管理栄養士がメニューを考案し、調理師が調理を行って、栄養バランスがよく喜ばれる食事の提供を目指して計画を進めています。

また、グループのサエラ薬局が作成している病気や栄養について解説した冊子を活用し、健康に関する啓発活動や管理栄養士による食育講座、簡易な健康測定などの企画も交え、地域の皆様に役立つ情報を発信していくと考えています。

サエラ薬局が健康情報の発信のため作成したオリジナル冊子。